

豊岡市新しい地域コミュニティ導入ガイドブック

平成 26 年度

モデル地区事例集



平成 27 年 6 月

豊岡市



はじめに

平成 27 年 2 月に豊岡市新しい地域コミュニティのあり方方針が定まり、平成 29 年 4 月から地区公民館はコミュニティセンターに変わります。

それに向けて、平成 26 年 4 月から 7 地区（中筋地区、中竹野地区、西気地区、弘道地区、資母地区、合橋地区、高橋地区）、同年 10 月から 3 地区（八条地区、奈佐地区、小野地区）が「モデル地区」としての取組みを開始しています。

このモデル地区事例集は、豊岡市新しい地域コミュニティ導入ガイドブック（平成 27 年 3 月発行）の別冊として、平成 27 年度からスタートするモデル地区の具体的な参考となるよう、平成 26 年度モデル地区の取組みをまとめたものです。

市内 29 地区それぞれのやり方で地域づくりに取り組んでいただきますが、先行して取り組まれている 10 地区の経過や内容などの実例を、一つの参考にしていただければ幸いです。

本紙掲載情報について

- | | |
|----------|--------------------|
| ・地区の概況 | 平成 27 年 4 月 1 日現在 |
| ・組織の状況 | 平成 27 年 6 月 1 日現在 |
| ・これまでの経過 | 平成 27 年 3 月 31 日現在 |

目 次

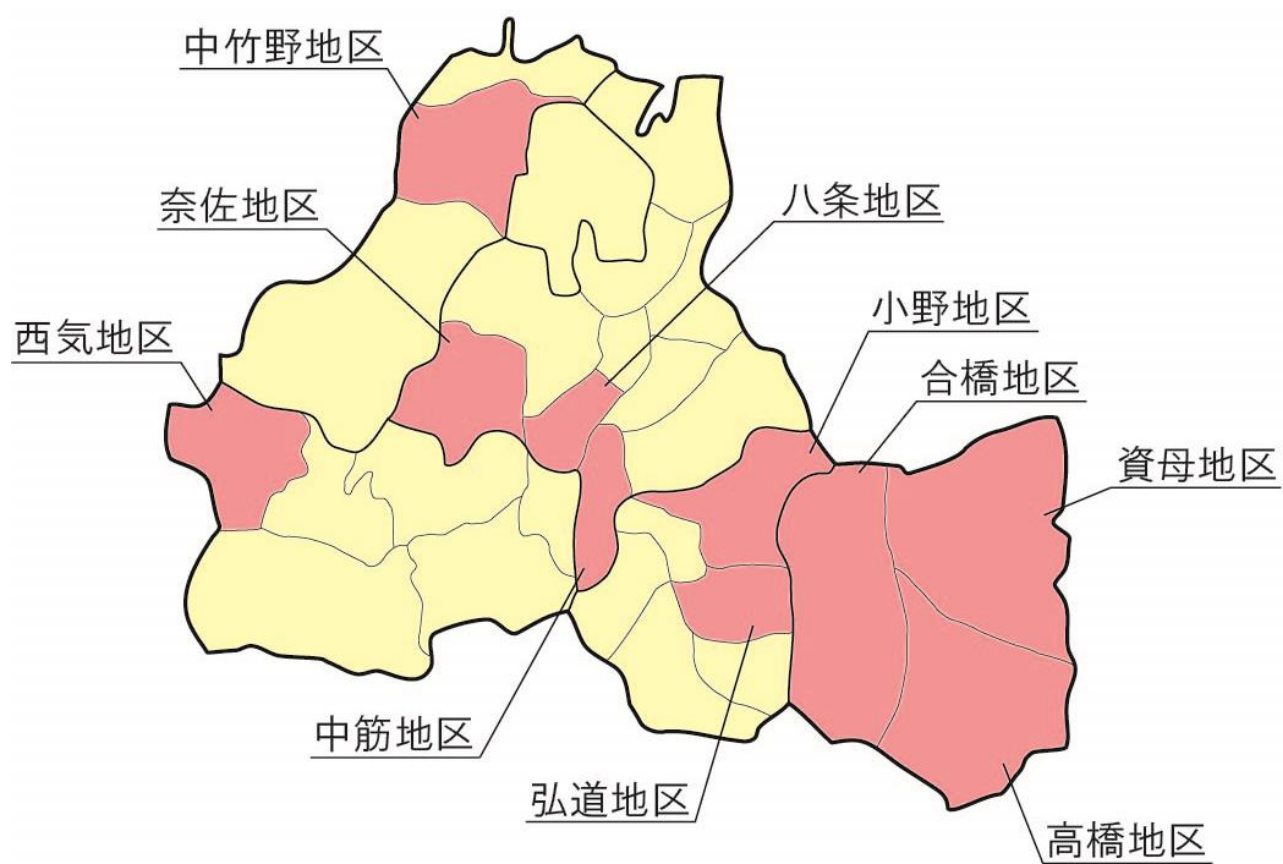
● 設立準備会

八条地区	八条コミュニティ準備会……………	2
中筋地区	地域コミュニティ中筋地区準備委員会……………	4
奈佐地区	奈佐地区コミュニティ組織設立準備委員会……………	6
中竹野地区	中竹野地区コミュニティ準備委員会……………	8
弘道地区	弘道地域コミュニティ協議会設立検討会……………	10
小野地区	小野地区コミュニティ協議会設立検討会……………	12

● 地域コミュニティ組織

西気地区	西気明日のいしずえ会……………	16
資母地区	地域づくりの会・しぼ……………	19
合橋地区	合橋地域づくりの会……………	22
高橋地区	高橋振興対策協議会……………	25

【平成 26 年度モデル地区マップ】



設立準備会



八条コミュニティ準備会



地区の概況

人 口	5,331 人	小学校	八条小学校（児童数 382 人）
世 帯 数	2,156 世帯	中学校	なし（豊岡南中学校区）
高齢化率	24.1%	幼稚園	八条認定こども園（園児数 206 人）
集 落 数	9	保育園	

組織の状況

代表者名 佐野 守男

会の構成 平成 26 年区長会 3 役、平成 27 年各区長、公民館長、公民館主事、民生児童委員、八条校区子ども会育成会、スポーツクラブ 21 八条 他（計 20 名）

これまでの経過

*平成 26 年 10 月モデル開始

	これまでの取組み	主な内容
H 26	10月 第1回検討会	部会について
	11月 第1回準備会	モデル地区の取組み説明、確認
H 27	3月 第2回検討会	アドバイザーについて

分野別取組み内容

地域振興 ①八条地区ふれあいイベント ②子ども見守り活動 ③防犯活動	地域防災 ①消防訓練 ②防災訓練 ③消防団による活動
地域福祉 ①敬老会 ②ふれあいのひととき ③みんなでおさんぽ歩キング	人づくり ①体育祭 ②ふるさとまつり ③八条リーグ ソフトボール大会 ④ソフトバレーボール大会 ⑤グラウンドゴルフ大会 ⑥囲碁ボール大会 ⑦囲碁・将棋・オセロ大会 ⑧卓球大会 ⑨早起き夏休みラジオ体操 ⑩夏休みパトロール ⑪乳幼児親子サークル ⑫公民館各種教室

コミュニティの取組み



平成 26 年 10 月からモデル地区としてスタートし、区長を中心とした「幹事会」、さらに八条地区の諸団体代表を加えた「準備会」において協議を行い、組織づくりや規約なども大枠が出来上がってきました。

また、平成 27 年 2 月には「八条地区ふれあいイベント」を開催するなど、地域づくり機運の高揚にも努めています。

今後は、八条地区の現状や住民の皆さんが感じている課題・要望などを知るための「住民アンケート」を

実施し、次の活動へと繋げていきたいと考えています。

平成 29 年 3 月までの間、試行錯誤を重ねながら、平成 29 年 4 月に従来の「公民館」から「八条コミュニティ」へと、円滑に移行できるよう進めていきたいと思っています。

「八条のことは八条で」を基本に、「安全・安心に暮らせる八条」、「明るく元気に暮らせる八条」、「人と人とのふれあい豊かな八条」を目指します。

取組みが始まったばかりで、「なぜこんなことを？」という人もいます。そのたびに、「せなあかんのやあ〜！」と言って盛り立てています。また、公民館がコミュニティセンターに移行することで、今までのように公民館に足を運べなくなるのではないかとといった不安の声も聞かれます。そのため、説明文書を作ったり、公民館だよりに記事を書いたりして広報に力を入れています。

公民館の取組みをコミュニティに移行させていく中で、「明るく元気」、「安全・安心」、「世代間交流が盛ん」な地区を目指します。



佐野守男さん
(同準備会 会長)

地域コミュニティ中筋地区準備委員会



地区の概況

人 口	1,981 人	小学校	中筋小学校（児童数 109 人）
世 帯 数	670 世帯	中学校	なし（豊岡南中学校区）
高齢化率	32.7%	幼稚園	中筋幼稚園（園児数 13 人）
集 落 数	9	保育園	なし

組織の状況

代表者名 今井 悟
会の構成 平成 26 年・27 年区長会 3 役、公民館長、中保会理事長、住み良い中筋をつくる会会長、農会長会長、豊岡消防団第 9 分団長、中筋 PTA 会長（計 12 名）

これまでの経過

*平成 26 年 4 月モデル開始

	これまでの取り組み	主な内容
H 25	12月 第1回中筋の未来をつくる ワークショップ	まちあるき、ワークショップ
	1月 第2回中筋の未来をつくる ワークショップ	中筋自慢マップの作成
	2月 第3回中筋の未来をつくる ワークショップ	地域活性化事例の紹介
	6月 「中筋の新しい暮らし方」講演会	石田秀輝氏（東北大学名誉教授）
H 26	7月 準備委員会に向けての各種団体長会議	準備委員の選出
	8月 第1回準備委員会	地域の魅力と課題、基本となる取り組み
	9月 第2回準備委員会	組織体制、地区の魅力と課題
	10月 第3回準備委員会	コミュニティ組織の目的と役割、コミュニティ組織に求めるもの
	11月 第4回準備委員会	今後のスケジュール、各部会の目的と役割
	第5回準備委員会	組織の目的と役割、部員の選任方法と部員人数
H 27	2月 地域発見「食と農を通じた地域の未来の作り方」講演会	金丸弘美氏（食環境ジャーナリスト）
	3月 「心とカラダの作り方」講演会	こばたてるみ氏
	第6回準備委員会	組織図の確認、部会事業の確認

分野別取組み内容

地域振興	①大師山まつり ②新川の歴史探訪 ③ホタル観察会 ④カブトムシ・クワガタ探検隊 ⑤野菜即売会 ⑥大師山桜の植樹 ⑦子どもの見守り活動 ⑧防犯活動 ⑨中筋の旬を楽しむ会	地域防災 ①防災マップづくり ②消火訓練 ③消防団による活動
地域福祉	①中筋地区敬老会 ②一人暮らし高齢者お弁当作り、訪問 ③福祉講演会 ④福祉連絡協議会議 ⑤支え合いマップづくり	人づくり ①中筋地区運動会 ②ソフトバレーボール大会 ③ソフトボール大会 ④グラウンドゴルフ大会 ⑤春の中山丘陵歩こう会 ⑥文化祭 ⑦三世代早起ラジオ体操 ⑧乳幼児親子サークル「わんぱクラブ」 ⑨幼児学級 ⑩公民館各種教室

コミュニティの取組み



豊岡最大の野菜の産地である中筋地区はハウス栽培が盛んです。「地産地消」できるということがいかに素晴らしいかを知ってもらうべく、子どもから大人まで交流を深めながら中筋で採れた“旬”の野菜を味わう「中筋の旬を楽しむ会」を、これまでに秋・冬・春の3回実施しました。

この会では、野菜当てクイズや古くから伝わる献立の再現・食べ比べ、お雑煮分布図づくりなどを行いました。野菜嫌いの子どもも残さず食べてくれました。

また、東北大学・石田秀輝名誉教授による講演会をこれまでに3回開催しました。平成26年6月に開催した初回の講演会は、コミュニティとして初めての行事でしたが約80名の方が参加されました。

石田教授には、少子高齢化などに直面していく中で、心豊かに暮らしていくヒントをお話しいただき、「自分たち住民が変わっていかねばならない」と感じられた参加者もありました。

現在、新しいコミュニティの愛称とロゴマークを住民の皆さんから公募しています。そうすることで、住民がコミュニティについて考え、積極的に参加してもらうことを期待しています。組織を継続させるためには住民の協力が欠かせません。そのような中で、公民館には毎日誰かが訪ねて来てくれます。住民と「コミュニティ中筋地区」が相互に協力することが可能な環境となっています。また、地域の人が拠り所になってくれていることがとても嬉しいです。今後、地区の人口減少が危惧される中で、地域住民の心の豊さを求めています。



太田洋治さん
(中筋地区公民館長)

奈佐地区コミュニティ組織設立準備委員会



地区の概況

人 口	1,192 人	小学校	奈佐小学校（児童数 68 人）
世 帯 数	385 世帯	中学校	なし（豊岡北中学校区）
高齢化率	36.3%	幼稚園	なし
集 落 数	12	保育園	なし

組織の状況

代表者名 岡谷 邦人

会の構成 区長会、公民館長、公民館主事、長寿会、奈佐小 PTA・スポ少、育成会、消防団、スポーツクラブ 21、農会長会、健康をすすめる会（計 21 名）

これまでの経過

*平成 26 年 10 月モデル開始

	これまでの取り組み	主な内容
H 26	10月 第1回設立準備委員会	出前講座、今後の進め方
	11月 第2回設立準備委員会	地区の良いところ、課題の整理
H 27	1月 第3回設立準備委員会	課題解決に向けたアイデアの整理

分野別取組み内容

地域振興	①奈佐森林公園まつり ②子どもの登下校安全見守り活動 ③防犯活動 ④観桜の会	地域防災 ①消防訓練 ②防火・防災訓練 ③消防団による活動
地域福祉	①敬老会 ②長寿会一泊研修	人づくり ①文化祭 ②小学校公民館合同運動会 ③三世代交流そば打ち大会 ④ソフトボール大会 ⑤バレーボール大会 ⑥At.奈佐ウォークラリー大会 ⑦夏休みラジオ体操 ⑧奈佐節継承 ⑨乳幼児親子サークル ⑩幼児教育学級 ⑪公民館各種教室

コミュニティの取組み



奈佐地区の準備委員会は、毎回、委員に宿題を提示しているのが特徴です。準備委員会の半月後までに提出してもらい、それを半月でとりまとめて次の準備委員会に臨んでいます。皆さん、それぞれに検討して提出されるので助かっています。

しかし、いつも座って会議しているばかりで楽しくない！という意見もあり、楽しく桜を愛でる「観桜の会」が発案されました。

当日はコントラバスと箏とキーボードとがコラボしたコンサートやサルサダンス、住職による揮毫

(きごう)などを行いました。また、しし鍋汁を無料でふるまったほか、地区単位でたこ焼きや焼きそばなどの出店もありました。

懐かしい人との再会や新しい人との出会いの場となり、新たなコミュニティの絆が生まれました。田畑が忙しくなる時期を前に住民に元気を与えられたようです。

今回は広報回数が少なかったため、次回開催する際には早めの広報と回数を増やし、より多くの人に来場してもらえようようにしたいです。

奈佐地区の人口は減少する一方で、伝統ある祭りの運営に支障が出始めていました。そこで、昨年度私の区では祭りのあり方検討会を開催して、作業等の取捨選択を行いました。また、草刈りなどの日役の人手も足りなくなってきたため、今年度からは制度を変え、1世帯2名以上出席した場合はその世帯に賃金を支払うことにしました。少子高齢化に柔軟に対応をしながら、住民同士の繋がりを大切にしていきたいと考えます。



岡谷邦人さん
(同準備委員会 会長)

中竹野地区コミュニティ準備委員会



地区の概況

人 口	685 人	小学校	中竹野小学校（児童数 31 人）
世 帯 数	226 世帯	中学校	なし（竹野中学校区）
高齢化率	36.2%	幼稚園	竹野認定こども園（園児数 71 人）
集 落 数	9	保育園	

組織の状況

代表者名	木瀬 堯后
会の構成	区長、前区長、公民館長、公民館主事、公民館協力委員、市議会議員、農会代表、女性の会代表、消防団（計 32 名）

これまでの経過

* 平成 26 年 4 月モデル開始

	これまでの取り組み	主な内容
H 26	5月 第1回準備委員会	地域コミュニティの必要性、役員選出、組織名称協議
	6月 第2回準備委員会	アドバイザー紹介、アドバイザーによる今後の取組み説明
	準備委員会だよりの発行	（以降毎月発行）
	7月 出前講座&ワークショップ	中竹野の良いところ、悪いところ
	8月 第3回準備委員会	ワークショップ結果の分析、先進地視察協議
	9月 第4回準備委員会	まちむら探検協議
	第5回準備委員会	作野先生との意見交換会
H 27	10月 第6回準備委員会	まちむら探検協議、準備委員会規約協議
	11月 第7回準備委員会	まちむら探検打合せ、準備委員会の進め方協議
	まちむら探検	地区内探検、ワークショップ、報告会
H 27	2月 第8回準備委員会	委員（区長）交代に伴う経過説明と意見交換
	3月 第9回準備委員会	まちむら探検の取組みとその活用方法

分野別取組み内容

地域振興	①河川愛護活動 ②ジャンボ巻きずし大会 ③子どもの見守り活動 ④まちむら探検 ⑤準備委員会だより発行	地域防災 ①消防団による活動
地域福祉	①敬老会 ②サロン活動	人づくり ①中地区総合体育大会 ②文化祭 ③三世代交流グラウンドゴルフ大会 ④ソフトボール大会 ⑤早起きラジオ体操 ⑥子ども110番の家の整備 ⑦定期パトロール ⑧幼児教育学級 「中竹野地区元気っ子ランド」 ⑨公民館各種教室

コミュニティの取組み



モデル地区の取組みをどのように進めていけばよいのか悩んでいたところ、「まずは地域の皆さんが中竹野地区のことをどのように思っているか意見を聞いてみては？」というアドバイザーの勧めもあり、ワークショップを開催しました。ワークショップでは49名の参加者が中竹野地区の「良いところ」と「改善が必要なところ」について意見を出し合い、発表することで参加者が相互に想いを共有し、最初の一步を踏み出すことができたと感じました。

また、ワークショップで出された意見について、実際に目で見て、肌で感じてもらうために「まちむら探検」を実施しました。小学生からお年寄りまで36名が参加し、6班に分かれて地区内を探検しました。

探検後は班ごとに結果を地図にまとめ、撮った写真をスクリーンに映しながら見てきた内容を発表しました。地区の名所やお宝などを住民で再発見する良い機会となりました。今後は、この結果を地域づくりにどう生かしていくかを検討していきます。

昭和52年に「中地区コミュニティ連絡協議会」が発足し活動してきましたが、組織ができた40年前とは地区の状況も変化しており、「組織運営や地区のあり方を見直すチャンス」だと思いモデル地区の取組みを進めてきました。準備委員会では、「農産物加工所の後継者不足を何とかしたい」という意見があがり、こんにやくづくりの後継者育成とともに、地域ぐるみでの新たな活動へと繋がろうとしています。人と人との繋がりを考えていくことが地区のあるべき姿。「遊び心」や「楽しみ」を大切に、焦らず、気長に輪を広げて、活動をしていきます。



木瀬堯后さん
(同準備委員会 委員長)

弘道地域コミュニティ協議会設立検討会



地区の概況

人 口	4,053 人	小学校	弘道小学校（児童数 233 人）
世 帯 数	1,592 世帯	中学校	出石中学校（生徒数 298 人）
高齢化率	30.1%	幼稚園	出石幼稚園（園児数 58 人）
集 落 数	16	保育園	出石愛育園（園児数 111 人）

組織の状況

代表者名 片山 正之

会の構成 平成 26 年・27 年区長会 3 役、公民館長、公民館主事（計 9 名）

これまでの経過

*平成 26 年 4 月モデル開始

	これまでの取組み	主な内容
H 26	2月 第1回設立検討会	設立検討会の設置、役員体制
	4月 第2回設立検討会	設立検討会規約（案）の可決
	5月 第3回設立検討会	弘道地区コミュニティ協議会設立のプログラム
	区長合同研修会	説明「新しい地域コミュニティについて」、講演「地域づくりの取組み」
	6月 第4回設立検討会	アドバイザーとの懇談会
	7月 第5回設立検討会	コミュニティ組織図（案）の検討
	第6回設立検討会	アドバイザーよりコミュニティ協議会設立のプロセス
	第7回設立検討会	組織図（案）の見直し、会則（案）の検討
	8月 区長説明会	進捗状況報告、意見交換
	第8回設立検討会	組織図（案）、会則（案）、構成員選出方法の検討
	9月 第9回設立検討会	アドバイザーより今後の進め方指導、各種団体への説明会計画
	第10回設立検討会	作野先生との意見交換会
	10月 区長説明会	講演「新しい地域コミュニティについて」
	第11回設立検討会	ワークショップのプログラム検討
H 27	11月 区長説明会	ワークショップのプログラム説明
	第1回ワークショップ	コミュニティ協議会や地域づくり計画の必要性和目的意識の共有、地区の現状・課題の洗い出し
	12月 第2回ワークショップ	目指すべき地域像、地区のあり方のイメージ確立
	1月 第12回設立検討会	新役員承認、組織づくりの具体化に向けた意見交換
	第3回ワークショップ	地域づくり活動の体系整理、取り組むべきことの検討
	2月 第4回ワークショップ	地域づくり活動の優先順位と活動プログラム検討
H 27	第13回設立検討会	地域づくり計画の内容確認と合意形成
	3月 第5回ワークショップ	活動プログラム、実施体制の検討
	第14回設立検討会	「弘道地区地域づくり計画」素案説明会の内容確認

分野別取組み内容

地域振興	①城下町歴史探訪 ②谷山川の清掃活動、谷山川ウォッチング ③子ども見守り隊	地域防災 ①普通救命講習 ②支え合いマップづくり ③消防団による活動
地域福祉	①敬老会 ②サロン活動 ③元気体操 ④学校修理ボランティア活動	人づくり ①町民運動会 ②ソフトバレーボール大会 ③ソフトボール大会 ④グラウンドゴルフ大会 ⑤親善ゴルフ大会 ⑥ふれあいコンサート ⑦土曜チャレンジ学習 ⑧読み聞かせボランティア活動 ⑨乳幼児の親子学習サークル ⑩公民館各種教室

コミュニティの取組み



弘道地区コミュニティ協議会が今後、計画的、戦略的に取組みを進めるプランを創り上げるため、アドバイザーのアドバイスを受けながら、これまでに5回のワークショップを開催しました。ワークショップには区長協議会をはじめ、商工会や観光協会など28の各種団体が参加し、弘道地区の将来像や、それを実現する上での課題や必要な取組みの意見集約ができました。

コミュニティが目標とする将来像としては、「弘道館精神」に代表される歴史や文化を尊重すること

や、美しい自然を守っていくこと、全世代が安心して楽しく暮らせること、住民同士で支え合うことなどが導き出されました。

また、そのための取組みとして、寺社仏閣等の歴史的資源を活用した茶会などの行事の開催や、空き家・空き店舗を活用したワンコインカフェの運営、世代間交流を生む場づくりなどが提案されているところです。

納涼会を毎年行なっていますが、女性の参加がいまひとつでした。そこで、参加してもらえない理由を女性に尋ねると、なんと「トイレがないから」だったのです！男性だけでは気が付きにくい指摘で、女性の意見を聞くことがいかに大切かを痛感しました。それ以降、会場をトイレのある屋内に変更し、女性にも多く参加してもらえるようになりました。女性が多いと料理のレパートリーも増えて一層楽しい会となっています。

今後も、住民が触れ合い、つながりが深まる地区になれば良いと思っています。



片山正之さん
(同検討会 会長)

小野地区コミュニティ協議会設立検討会



地区の概況

人 口	1,278 人
世 帯 数	423 世帯
高齢化率	28.2%
集 落 数	4

小学校	小野小学校（児童数 60 人）
中学校	なし（出石中学校区）
幼稚園	小野幼稚園（園児数 17 人）
保育園	なし

組織の状況

代表者名 加藤 幸洋

会の構成 区長、前区長、公民館長、チクタクひぼこ運営協議会代表（計 9 名）

これまでの経過

* 平成 26 年 10 月モデル開始

	これまでの取り組み	主な内容
H 26	10月 第1回設立検討会	いずし古代学習館の指定管理について
	12月 第2回設立検討会	いずし古代学習館の指定管理について
H 27	2月 第3回設立検討会	規約及び組織について
	3月 第4回設立検討会	地域コミュニティの運営体制について

分野別取組み内容

地域振興	①小野フェスタ、農産物の直売 ②川や田んぼの生きもの調査 ③子どもの見守り活動 ④てっせん街道を守る活動	地域防災 ①防災ワークショップ ②防火訓練 ③消防団による活動
地域福祉	①チクタクひぼこ ②敬老会 ③健康で長生きする活動 ④老人会活動 ⑤一人暮らし高齢者の見守り ⑥サロン活動	人づくり ①総合体育大会 ②グラウンドゴルフ大会 ③ソフトバレーボール大会 ④夏休みラジオ体操 ⑤ミニ文化祭 ⑥乳幼児サークル「おのっこの森」 ⑦公民館各種教室

コミュニティの取組み



平成 23 年 3 月に市営バス「イナカー」が廃止となったため、小野地区は公共交通の空白地域となってしまいました。そこで、地区の乗合タクシーである「チクタク」を運行するため、平成 23 年 5 月に住民で組織した「チクタクひぼこ運営協議会」を立ち上げました。

運転や利用予約の対応等を協議会のメンバーで行っていて、週 3 日（月・水・金）運行しています。一日当たりの平均利用者数は年々増加し、平成 26 年度は 1,577 人（11 人/日）の利用がありました。現在

は、40 代～70 代のドライバー 15 名で運行しています。

チクタクの運行により、買い物や通院が便利になったとお年寄りに喜んでもらえているようです。また、チクタクの車内も住民同士の貴重な交流の場となっていて、会話を楽しんでおられます。

チクタクの運行によってお年寄りが元気になったと感じられます。

小野地区は天日槍（アメノヒボコ）および此隅山城（このすみやまじょう）をはじめとする「歴史」と、法沢山系の水源の里であることから「自然」という 2 つのテーマを掲げてまちづくりに取り組みたいと考えています。

まちづくりを進める上では、顔を合わせて話をするのが大事だと考えています。同じ地区内でも集落ごとにまた特色があって、新たな発見もあるので面白いです。今後はワークショップを開催し、組織の名称や規約などを作成していきます。



加藤幸洋さん
（同検討会 会長）

地域コミュニティ組織



西気明日のいしずえ会



地区の概況

人 口	840 人	小学校	なし（清滝小学校区）
世 帯 数	285 世帯	中学校	なし（日高西中学校区）
高齢化率	35.1%	幼稚園	なし
集 落 数	7	保育園	なし

組織の状況

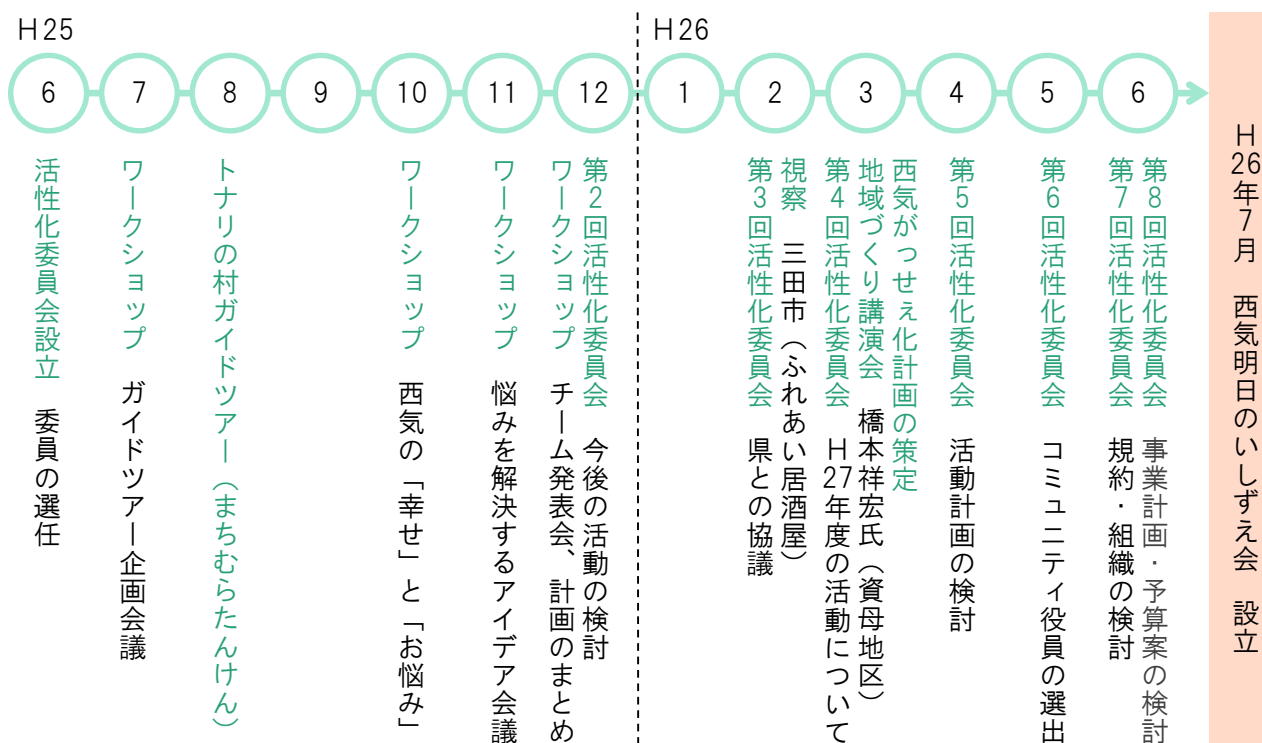
代表者名 田原 宏二

設立年月日 H26.7.18

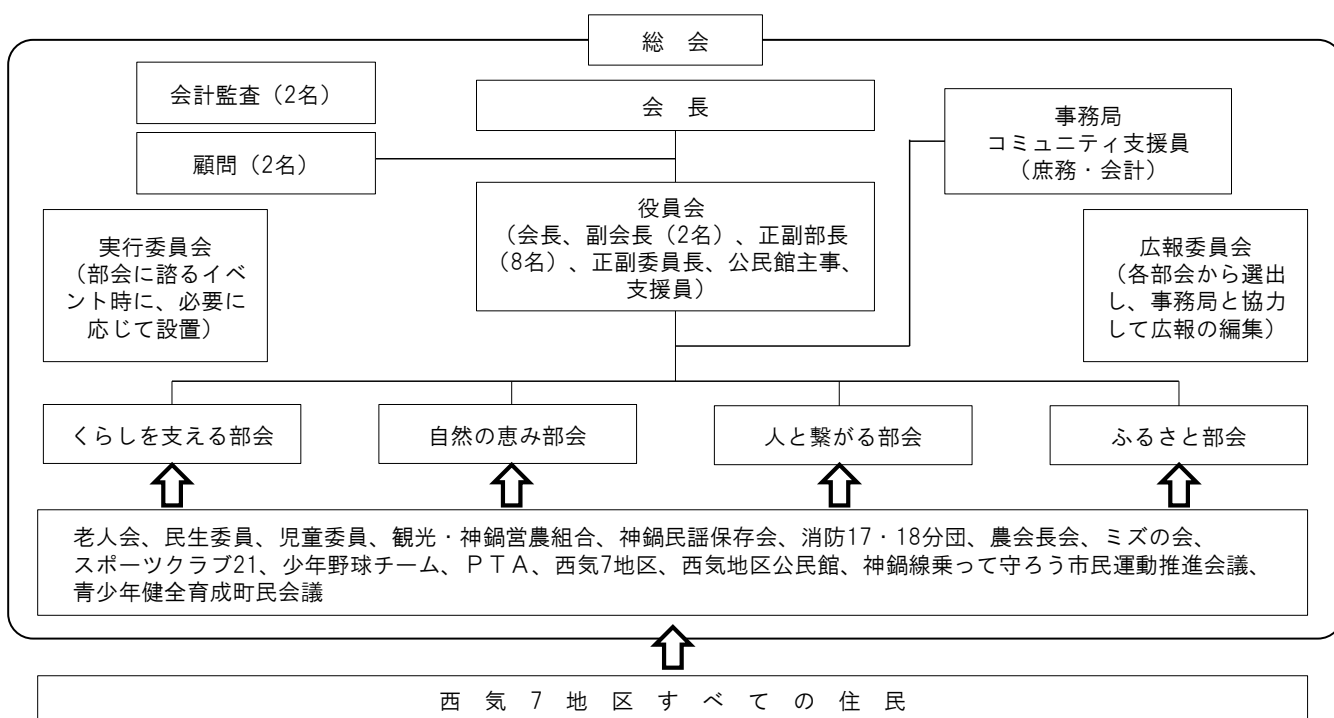
役員体制 会長 1 名、副会長 2 名、部長 4 名、副部長 4 名、広報委員長 1 名、広報副委員長 1 名、顧問 2 名

設立までの経過

*平成 26 年 4 月モデル開始



組織図



はじめの第一歩計画

西気がっせえ化計画

おかえり、ただいま。

西気の風景や人に、そんな声をかけあえるような”帰りたくなる”地域を目指して

策定経緯

「人口減少、高齢化による地域力の低下」、「少子化による学校統合」、「生活基盤施設の減少」、「日常生活に支障」など地区の厳しい現実を打開するため、兵庫県の「ふるさと自立計画推進モデル事業」に取り組み、県の派遣アドバイザー（若狭健作氏）の指導のもと、平成26年3月に策定。

策定手法

「いいところ探し ガイドツアー企画会議」、「トナリの村ガイドツアー（まちむらたんけん）」、「西気で感じる幸せとお悩み会議」、「お悩みを解決するアイデア会議」、「チーム発表会＋計画のまとめ」を主題とした計5回のワークショップを開催し、計画としてまとめた。

計画概要

「ヒトプロジェクト（人のつながり演出する）」、「暮らしプロジェクト（これからの暮らし支える）」、「自然プロジェクト（自然の恵み活かす）」の3部門で、「今すぐできそうな事業」、「1年後の実現を目指す事業」、「2年後の実現を目指す事業」、「いつかはやってみたい事業」を盛り込んだ計画となっている。

分野別取組み内容

地域振興

- ①創作料理の開発研究（鹿肉試食会）
- ②地域の魅力スポットの研究（花畑・田んぼアート）
- ③西気写真コンテスト
- ④西気地区探検
- ⑤神鍋高原線 200 円バス利用促進
- ⑥広報紙「西気明日のいしずえ」発行

地域防災

- ①普通救命講習
- ②消防訓練
- ③消防団による活動

地域福祉

- ①西気地区敬老会

人づくり

- ①西気地区交流会
- ②西気地区ふれあいの集い
- ③グラウンドゴルフ大会
- ④卓球大会
- ⑤アジャタ大会
- ⑥乳幼児学習サークル
- ⑦公民館各種教室

コミュニティの取組み



地域の足である「神鍋高原線 200 円バス」の運行を守るため、バスの利用促進につながる事業の検討を行いました。そして、「西気地区交流会」や「敬老会」の会場を道の駅『神鍋高原』に設定することで、参加される人はバスを利用するように声掛けをしました。その結果、参加者の大半が会場との往復にバスを利用しました。

また、2つの観光コンテンツの開発に取り組みました。1つは神鍋山から見下ろす「田んぼアート」です。他地区にないロケーションであり、

実施に向けて先進地の但東町へ視察に行きました。候補地の選定も行いましたが、耕作者と話し合う中で、問題点も浮き彫りとなりました。休耕田も含めて候補地の検討を進めています。

2つ目は鹿肉を使ったグルメ開発で、試食会を行いました。「美味しい、ビールに合う」「鹿肉の確保、また、流通を確立すれば販売できる」等の高評価でした。

西気小学校が廃校になってから、地域に元気がなくなったように感じています。そのような中で、この春、大学を卒業した西気出身者 10 名のうち 6 名が実家から通勤できる職場に就職しました。こんなに嬉しいことはない、お迎え会を開催しました。

地区内に雇用を生み出すことはなかなか難しいけど、地元に戻る決断をしてくれて本当にありがたいです。今後は、戻ってきた若者が少しでもコミュニティに参加してくれるように工夫していけたら良いと考えています。



中島万佐代さん
（自然の恵み部会 副部長）

地域づくりの会・しば



地区の概況

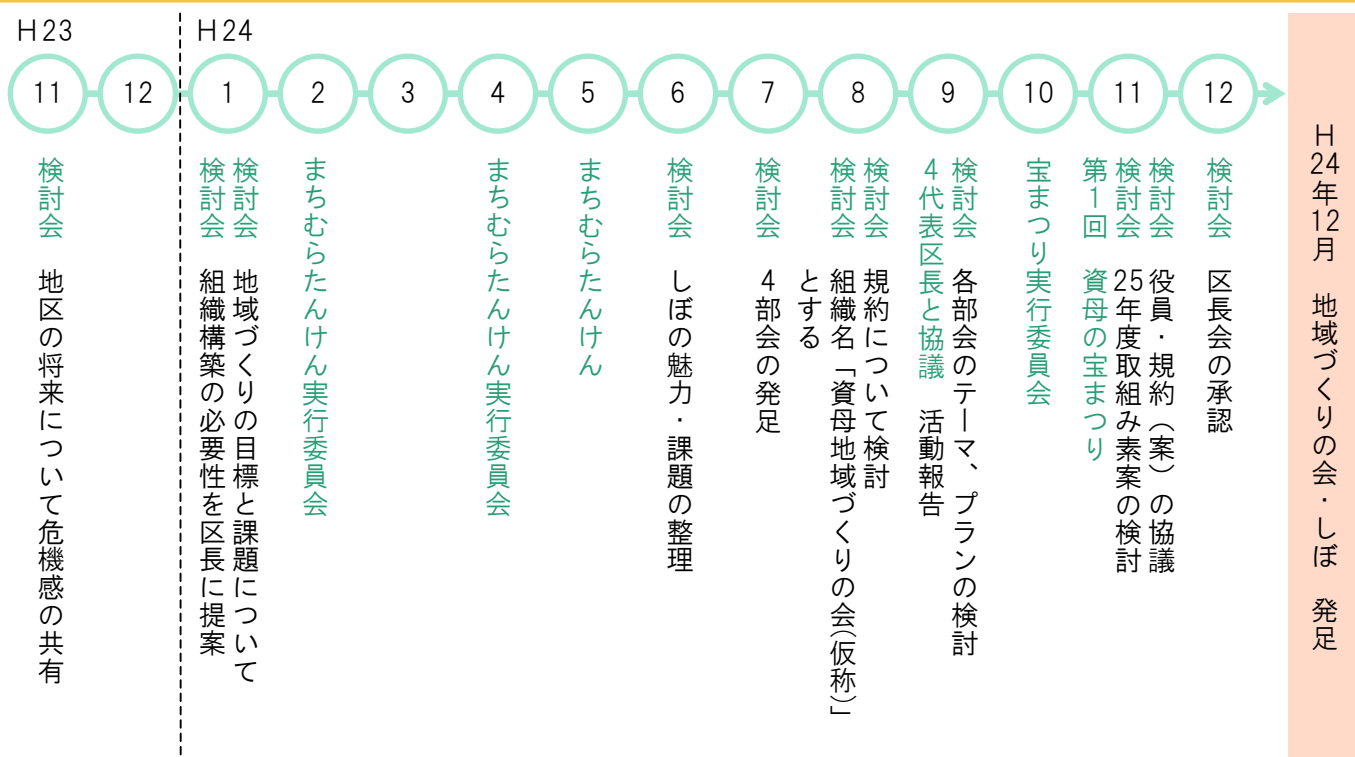
人 口	1,807 人	小学校	資母小学校（児童数 67 人）
世 帯 数	696 世帯	中学校	なし（但東中学校区）
高齢化率	42.6%	幼稚園	
集 落 数	17	保育園	資母認定こども園（園児数 36 人）

組織の状況

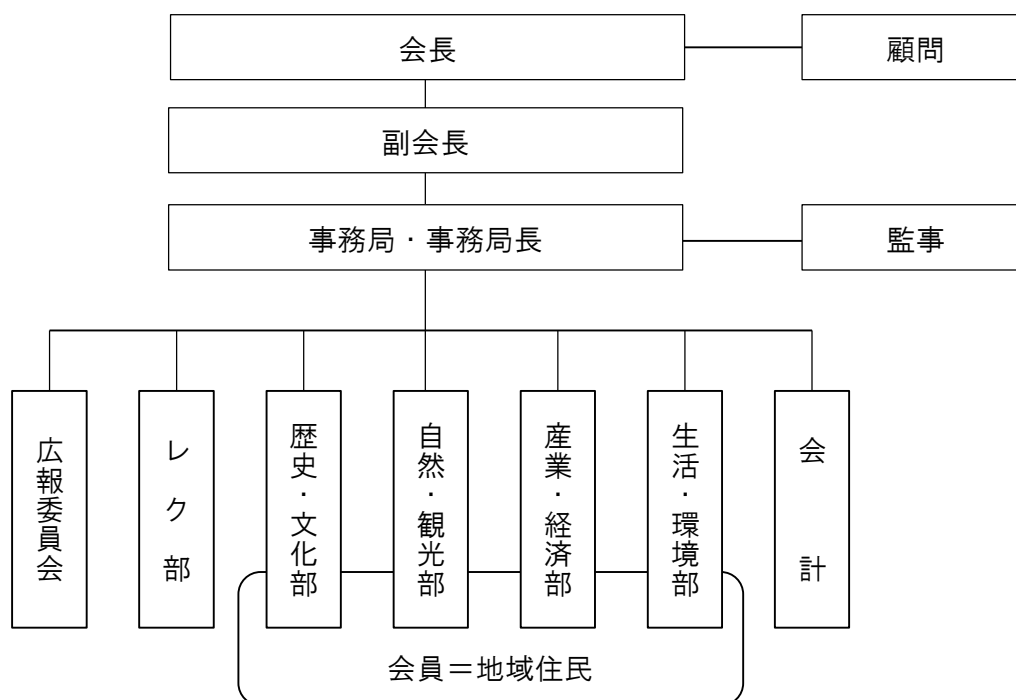
代表者名 霜倉 和典
 設立年月日 H24.12.15
 役員体制 会長 1 名、副会長 2 名、各部会長 4 名、広報委員長 1 名、幹事 2 名、監事 2 名、顧問 1 名

設立までの経過

*平成 26 年 4 月モデル開始



組織図



はじめの第一歩計画

しぼの夢プラン ～伝統文化をはぐくみ、花と緑あふれる、やさしい郷・しぼ～

歴史・文化部

- ・ 歴史文化を大切に伝える。
- ・ 先人に学ぶ、歴史にふれるウォーク。

生活・環境部

- ・ 人が集い、つながる人が人を思いやる。
- ・ 誰もが居場所を持っている。
- ・ やさしい社会・助け合える・互助を育てる。
- ・ 困ったことを受け止め、共に考える。

自然・観光部

- ・ 花に囲まれ、自然が守られ、
楽しみのあふれる郷。
- ・ 情報発信。

産業・経済部

- ・ ほこりがもてる。地域力をつける。
- ・ おいしいものが楽しめる。
- ・ ゆっくり休める。
- ・ 田や畑、山が生きている。
- ・ 生き生きと働いている。
- ・ 自慢の一品。

全体

- ・ 多くの人々が参加し、共に考える活動。
- ・ 将来へつなげるために、今何をすべきか？
- ・ みんなが年間2～3回参加できる事業。
- ・ 収益事業としてどんなこと。
- ・ 各種団体、グループ、公民館、博物館と調整した全体プログラムの作成と地域としての一体活動。
- ・ 拠点づくり（地域支援センター）等協議

分野別取組み内容

地域振興	①空き家対策（空き家調査等） ②資母小学校の秋季運動会を地域で盛り上げる活動 ③資母小学校を拠点とした活動（ラジオ体操） ④「きれいな資母に」（景観を美しくするための活動） ⑤子どもの見守り活動 ⑥広報紙「資母発見伝」発行	地域防災 ①安心・安全キット普及活動 ②普通救命講習 ③消防団による活動
地域福祉	①チクタク資母 ②サロン活動 ③歩キング体操の推進 ④一人暮らし老人宅の除雪、見守り	人づくり ①宝まつり ②じゃがじゃがまつり ③宝市場 ④歴史講座 ⑤地域の人材の紹介、文化の継承 ⑥乳幼児教室「ちゅうりっぷくらぶ」 ⑦放課後子ども教室 ⑧公民館各種教室

コミュニティの取組み



これまでに広報紙「資母発見伝」を第 35 号まで発行しています。月 1 回の頻度で発行しており、会の活動報告のほか、資母にお住まいで頑張っておられる人などを紹介しています。地域内への配布はもちろん、地域外へも約 200 部発送しており、地域に関心を持っていただくきっかけとなっています。

また、鹿の棲み家となっていた耕作放棄地の草刈りをすることで、資母の景観を良くしようと取組みを始めました。綺麗にした耕作放棄地はじゃがいもを植えて栽培をはじ

めました。そのじゃがいもは資母小学校の学年 PTA で調理に使ってもらいました。さらに、地域の女性の方々にじゃがいも料理をふるまってもらい、草刈りボランティアや地域の方々が交流する「じゃがじゃがまつり」も開催しました。

始めは一区画だけでしたが、それが刺激となり、近隣地区にも荒廃地を綺麗にしようという動きが広まってきました。



沖中久子さん
（地域の応援隊）

いつも楽しみながら地域づくりの活動に参加しています。

資母は、春はチューリップまつり、夏は食べ物を持ち寄って夕涼み、秋は秋祭り、冬はご高齢のお宅の雪かきなど、四季を通じて隣近所と声を掛けあいながら生活しています。

地区外の人にもこの良さを知ってもらって、「良いところですね」とか、「また来たい」などと言ってもらえると嬉しいですし、そう言ってもらえるように資母の魅力を多くの人に伝えていきたいです。

合橋地域づくりの会



地区の概況

人 口	1,794 人	小学校	合橋小学校（児童数 77 人）
世 帯 数	653 世帯	中学校	但東中学校（生徒数 101 人）
高齢化率	36.0%	幼稚園	
集 落 数	16	保育園	合橋認定こども園（園児数 47 人）

組織の状況

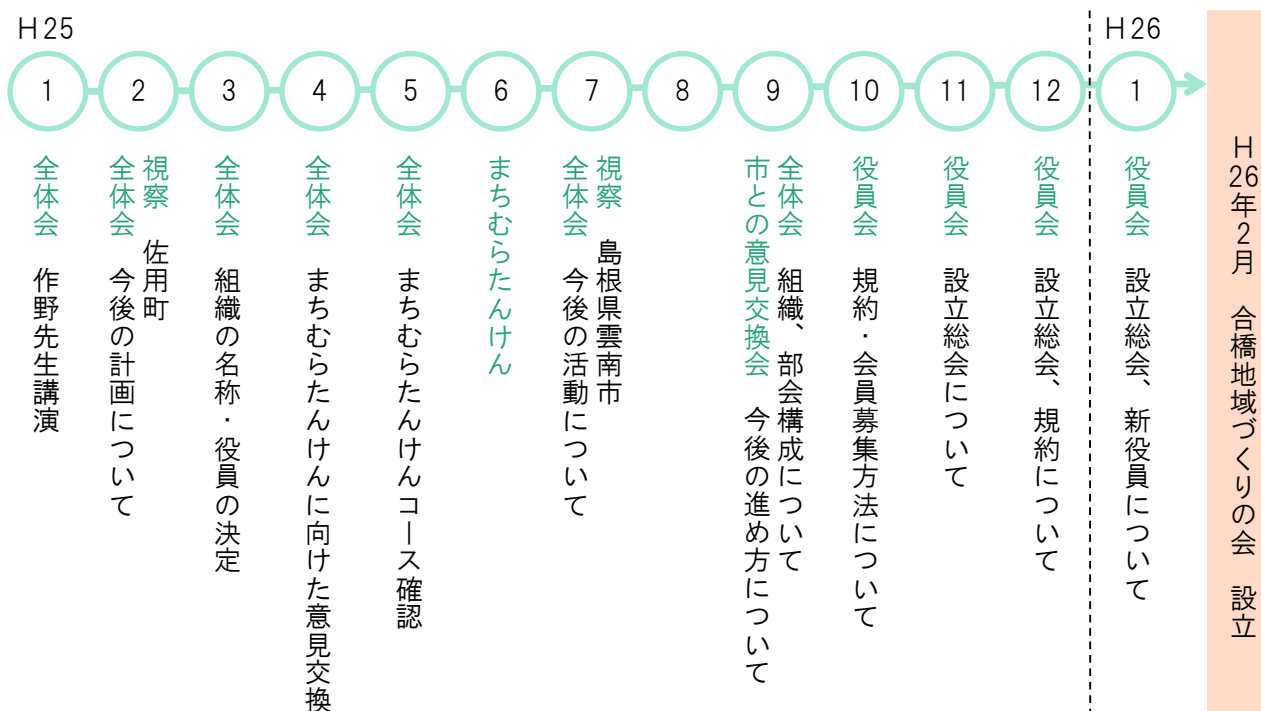
代表者名 宮嶋 幸広

設立年月日 H26.2.8

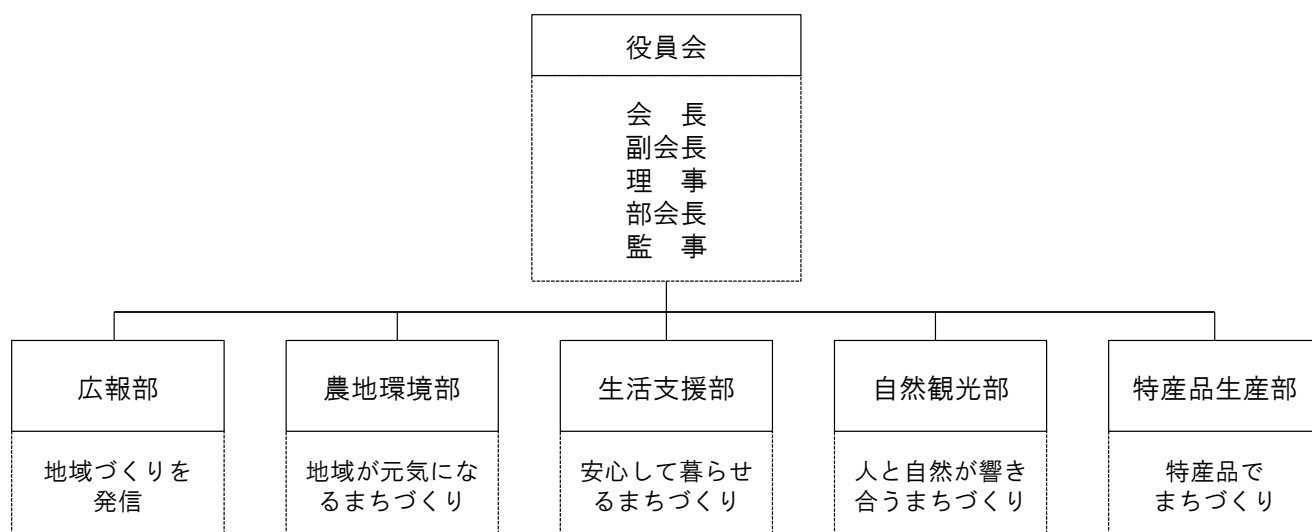
役員体制 会長 1 名、副会長 2 名、理事 4 名、各部長 5 名、監事 2 名

設立までの経過

*平成 26 年 4 月モデル開始



組織図



はじめの第一歩計画

合橋地域づくり計画

誇れること、自慢できることがある合橋。
住んでいてよかったと思える合橋をめざして！

策定経緯

過疎化が進む中、合橋地区で起こる様々な課題に対し、地域自らが自分の課題と認識し、主体的に取り組みを展開するため、平成 26 年 4 月に策定。

策定手法

役員が主体となり、地域の課題や魅力、また地域固有の伝統文化などを整理し、合橋地区の豊かな未来を実現するためにはどうすればよいのかなどの検討を行い策定した。

将来の地域ビジョン

- ・ 自然の魅力が溢れる地域づくり
- ・ みんなが安心して暮らせる地域づくり
- ・ ふるさと合橋 誇りと豊かな心を育む地域づくり
- ・ 特性を活かした活気ある地域づくり
- ・ 訪れてみたくなる美しい地域づくり
- ・ 自分達の地域は自分達で守る地域づくり

分野別取組み内容

地域振興

- ①特産品開発 きな粉あめ作り、鮎のヘシコ、ウドの味噌漬け、花びらジャムの試作
- ②水仙の植栽イベント
- ③各種イベント出店
- ④広報紙「ぼちぼち」の発行

地域防災

- ①普通救命講習
- ②防災マップの確認
- ③避難訓練
- ④消防団による活動

地域福祉

- ①チクタク合橋
- ②まごのて活動
- ③買い物ツアー
- ④一人暮らし高齢者お弁当配達
- ⑤小学校福祉授業
- ⑥歩キングイベント
- ⑦サロン活動

人づくり

- ①グラウンドゴルフ大会
- ②乳幼児親子学習サークル
- ③各種サークル活動
- ④公民館各種教室

コミュニティの取組み



地区に伝わる伝統の味を引き継いで、次世代に残していきたいという想いから、合橋生活改善グループの皆さんに伝統料理の作り方を教わりながら特産品づくりを行なっています。一つひとつ手づくりで生産した「きな粉あめ」は合橋の特産品として、ドライブインいずしや出石堂だけでなく、東京のアンテナショップでも販売しています。地元販売版と東京販売版では値段やパッケージ、きな粉の量などを変えろという工夫を加えました。

また、生活支援部会ではヘルパー

さんや行政の手が届かないところのサポートができればと思い、高齢者の方のちょっとした困りごと（薬の受け取りや買い物代行、電球の取り換えなど）をお手伝いする「まごのて活動」や、「買い物に行きたくても行けない。だけど、やっぱり商品を手に取って選びたい」という声をサポートする「買い物ツアー」を試験的に実施しています。

お気軽にご相談していただけたら嬉しいです。

現在、「合橋地域づくりの会」は100名近くの会員数となっていますが、部会ごとの活動がメインとなっていて、異なる部会に所属する会員同士の繋がりが薄いのが現状です。今年度は全会員を対象にした取組みを企画し、会員同士の繋がりをさらに深めていきたいと考えています。

また、会員はお年寄りが多いですが、普段はなかなか交流する機会がないので、副会長をやらせていただく中で、そういう機会をもらえることにとても感謝しています。



谷垣洋一郎さん
(同会 副会長)

高橋振興対策協議会



地区の概況

人 口	928 人	小学校	高橋小学校（児童数 30 人）
世 帯 数	367 世帯	中学校	なし（但東中学校区）
高齢化率	42.0%	幼稚園	高橋認定こども園（園児数 11 人）
集 落 数	9	保育園	

組織の状況

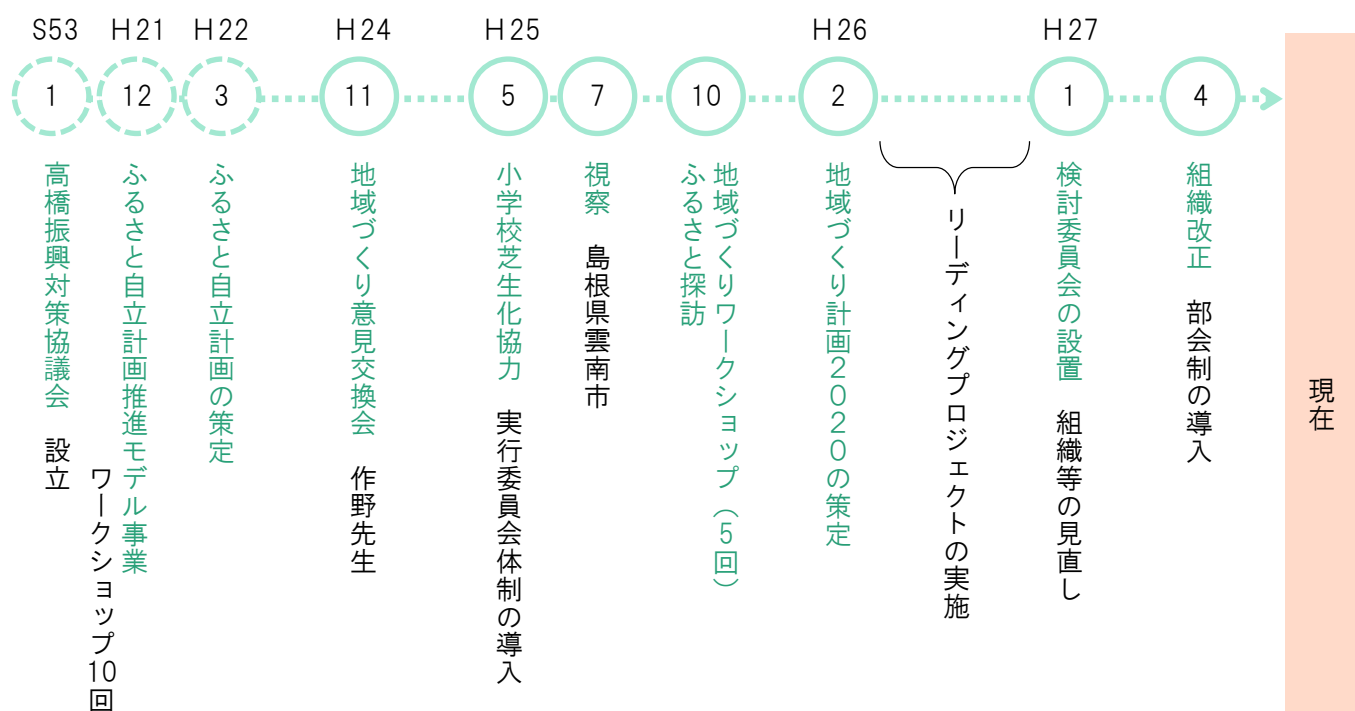
代表者名 田口 保

設立年月日 S53.1.1

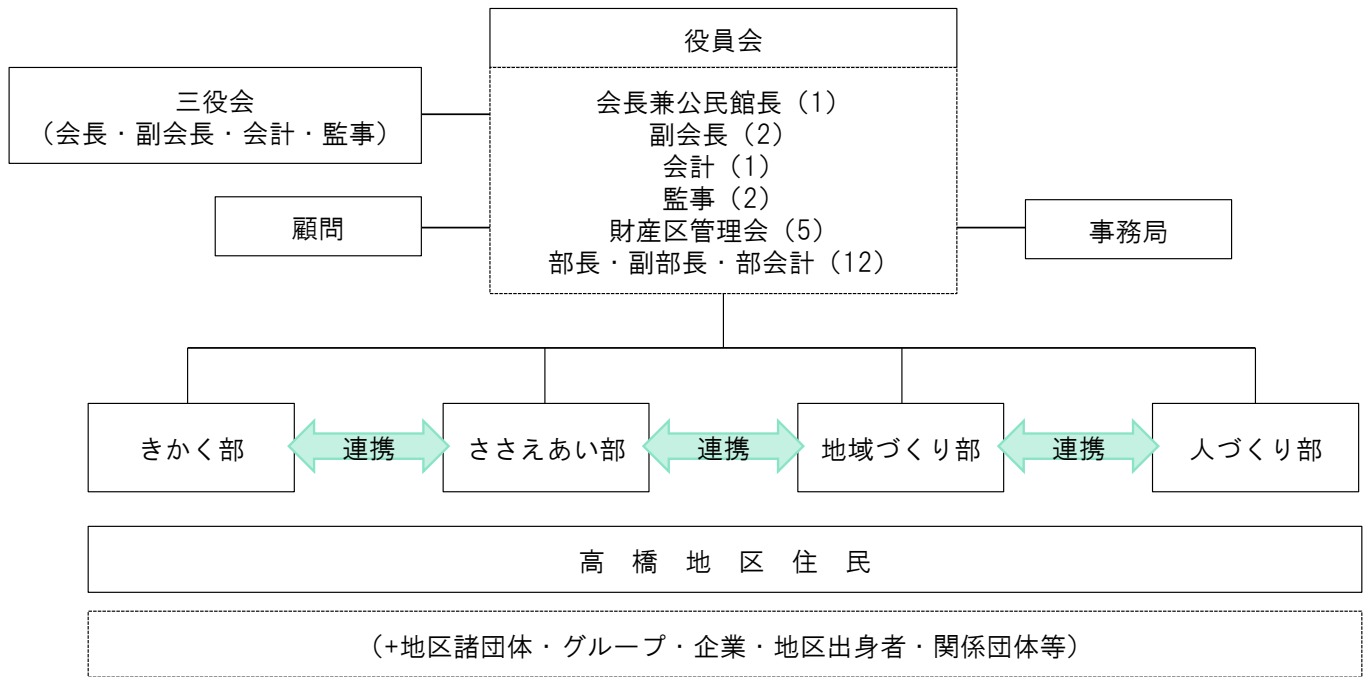
役員体制 会長 1 名、副会長 2 名、会計 1 名、監事 2 名、理事 22 名、顧問 3 名、事務局

設立までの経過

*平成 26 年 4 月モデル開始



組織図



はじめの第一歩計画

高橋地区地域づくり計画 2020

策定經緯

平成 22 年 3 月に策定した「高橋地区ふるさと自立計画」に示された 5 年後、10 年後の高橋の将来を見据え、自立し自律した地域づくりを進めるための指針が必要と考え、平成 26 年 2 月に策定。

策定手法

アドバイザー・井原友建氏の協力のもと、平成 25 年 10 月から計 5 回の地域づくりワークショップと説明会を開催し、計画としてまとめた。

計画概要

- ①少子・高齢化社会への対応
- ②地域住民のふれあい、支え合いの意識の醸成と取組みの促進
- ③地域への愛着、ふるさとへの誇りの育み
- ④美しく安全で安心して暮らせる生活環境の維持、充実
- ⑤地域産業の活性化
- ⑥地域づくりの活動の財源確保と実行体制の早期確立
- ⑦地域づくりに対する住民の関心と参加意欲の向上

分野別取組み内容

地域振興	①高橋ふれあい市 ②空き家調査 ③空き店舗の活用 ④広報紙「高橋振興対策協議会だより」の発行	地域防災	①消防避難訓練 ②普通救命講習 ③消防団による活動
地域福祉	①声からつくる高橋未来プロジェクト ②サロン活動	人づくり	①高橋校区民大運動会 ②高橋ふるさと探訪 ③English cafe ④郷土資料報告書作成 ⑤校区民ラジオ体操 ⑥そうめん流し&魚つかみ ⑦ジャンボ巻きずし ⑧乳幼児親子サークル「ひまわり広場」 ⑨放課後子ども教室 ⑩公民館各種教室

コミュニティの取組み



これからグローバル社会を迎える中で、自分たちのふるさとの魅力を英語で世界に伝えることができたなら素敵！そんな想いで月に1～2回、中学生や高校生が中心となって、遊びや日常生活の場面を通して幼児や小学生に英語を教える「English cafe」を開催しています。

平成26年度は9回開催し、中学生11名、高校生4名、小学生以下35名が参加しました。認定こども園、小学校、中学校、高校と連携を取りながら取組みを進めています。

また、ふるさとである高橋を知

り、魅力を再発見するため、高橋地区内を巡る「ふるさと探訪」を実施しました。当日は、地域と子ども達とともに汗を流して地域の魅力探しをしたことで、世代間交流が図られました。さらに、ずっと住んでいる人も新たな発見があり、また開催してほしいと好評でした。

ただ、今回は122名という想定以上の参加者だったため、安全確保に不安が残りました。また、探訪を受け入れる地区は案内やおもてなしといったことに負担を感じた方もおられたようです。

平成26年度、高橋振興対策協議会は3つのリーディングプロジェクトを実行委員会体制で取り組みました。しかし、これから先も取組みを継続していくためには新たな体制が必要であると考え、「コミュニティ組織を考える検討委員会」において組織体制を検討し、平成27年4月から「部会制」を導入することになりました。

「全員参加で創ろう 助けあいの輪」をスローガンに、『住民主体の地域づくりを図り、地域課題を解決し、「住民自ら考え、行動し、楽しさや喜びを実感できる」ことを目指す。』という目的を達成するため、今後も取組みを進めていきたいと考えています。

豊岡市新しい地域コミュニティ導入ガイドブック
平成 26 年度 モデル地区事例集

発行者：豊岡市 地域コミュニティ振興部 コミュニティ政策課
〒668-8666 兵庫県豊岡市中央町 2-4
電話 (0796) 21-9020 FAX (0796) 29-0054
E メール community@city.toyooka.lg.jp

問合せ：	■豊岡地域	コミュニティ政策課	21-9020（総合窓口）
	■城崎地域	城崎振興局地域振興課	32-0001
	■竹野地域	竹野振興局地域振興課	47-1111
	■日高地域	日高振興局地域振興課	42-1111
	■出石地域	出石振興局地域振興課	52-3111
	■但東地域	但東振興局地域振興課	54-1000